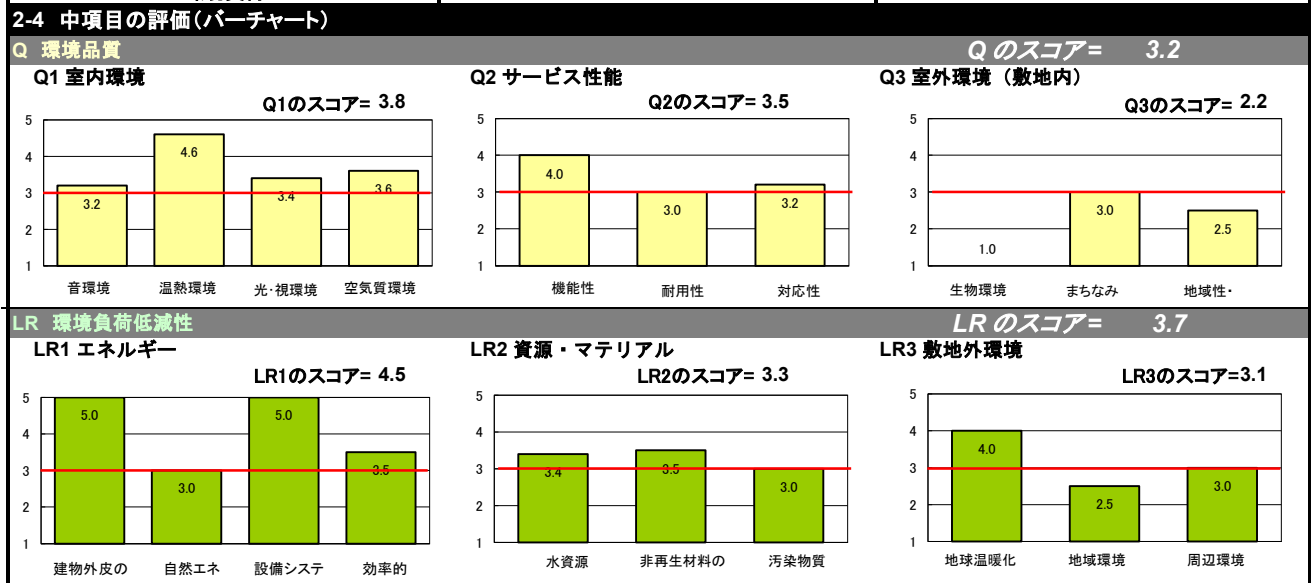
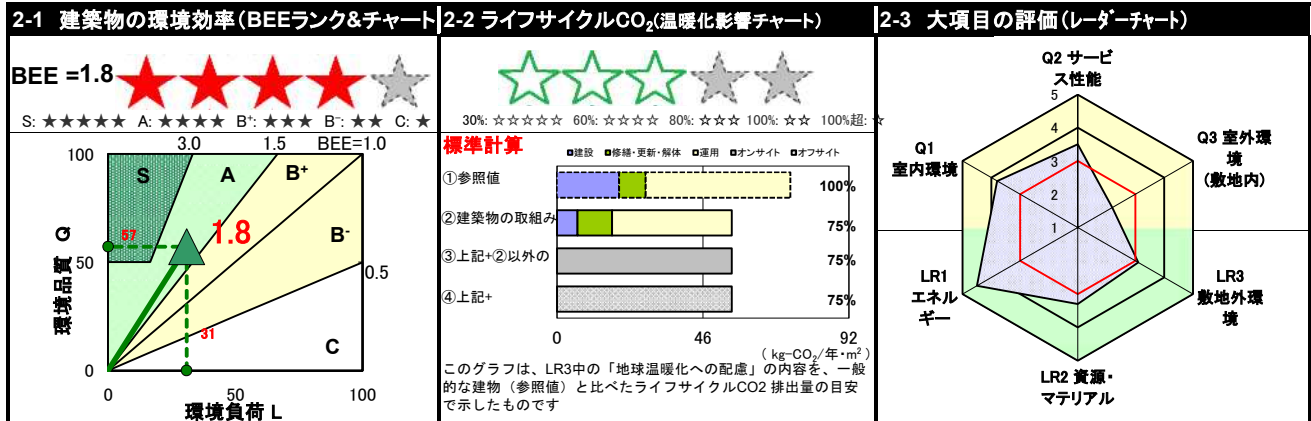


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)レーベン朝霞本町 新築工事	階数	地上15F
建設地	埼玉県朝霞市本町2丁目1-1	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	336 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年7月1日
敷地面積	1,440 m ²	作成者	株式会社デベロップデザイナー級建築士事務所
建築面積	609 m ²	確認日	2025年7月1日
延床面積	6,678 m ²	確認者	株式会社デベロップデザイナー級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
総合 ・朝霞市に建設される集合住宅である。 ・複層ガラス、LED照明、太陽光発電設備を採用し環境負荷の低減に配慮している。		その他
Q1 室内環境 ・サッシや床材等は、遮音性能の高いものを採用し、室内の音環境の向上に配慮している。 ・開口部を大きくとり、自然換気性能や昼光利用に配慮している。	Q2 サービス性能 ・各住戸に1Gbitクラスのブロードバンドを整備し、機能性に配慮している。 ・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の創出に配慮している。
LR1 エネルギー ・断熱性能の高い建材を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 ・材料使用料削減に寄与する工法の採用やリサイクル材等を使用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・深夜の減灯等、周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)レーベン朝霞本町 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40		-	3.8
1 音環境		3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.2 遮音		-	-	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能	住:T-2以上	-	-	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	5.0	1.00	4.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	住:断熱性能の高い建材を使用	3.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.2	0.25	3.5	1.00	3.4
3.1 昼光利用		1.8	0.43	3.0	0.50	
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	4.0	0.50	
1 昼光制御	住:庇とカーテンの2種類の組合せでグレアを制御	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御	共:自動制御	5.0	0.36	-	-	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	天井裏も含めて全面的にF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.0	0.40	4.2	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	Gbitクラス以上のブロードバンドが利用可能な環境を整備	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準 劣化対策等級における「等級3」相当	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	シートフローリング、ビニルクロス	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯:PEP、排水:VP、冷媒:CUP	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり		-	-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	基準階階高:2.92m	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4を超える	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.78	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	3.5
集合住宅以外の評価			-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	
集合住宅の評価			3.5	1.00	-	
4.1	モニタリング	電力消費量の表示機能のある装置を導入	4.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	3.4
1.1	節水	節水型器具の採用	4.0	0.40	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	高強度剪断補強筋、アースドリル拡張底工法等の採用	4.0	0.10	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	押出法ポリスチレンフォームを屋根の断熱材に使用	3.0	0.20	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法を採用	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	
1	消火剤	ガス消火設備がないため、対象外	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率=75%	4.0	0.33	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート









■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)レーベン朝霞本町 新築コ	BEE	1.8	BEEランク	★★★★
------	------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア					
4.0	+	2.0	=	6.0	 
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上	 	非常によい 6.8以上	  
				すばらしい 8.0以上	   

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	4.0
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
＜配慮した内容を記述＞ 日本住宅性能表示基準 劣化対策等級における「等級3」相当とし、躯体の長寿命化により、LCCO2の排出量の抑制に配慮している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
＜配慮した内容を記述＞ 空地部分を積極的に緑化し、生物環境の創出・温熱環境の向上に配慮している。			

 : 入力欄